

雪 椿 通 信

新潟県立近代美術館だより NOM
Autumn & Winter 2017

vol.49

館 長 所 感

館 長 木 村 哲 郎



4月に就任してから3カ月余が過ぎました。就任して初めてテープカットを行った「漢字三千年」。4月29日の開幕以来、苦戦続きでしたが終盤に入ってようやく勢いを取り戻してゴールとなりました。新しく県美術家連盟理事長に就任された小林畦水さんからは「何回も足を運んだ。素晴らしい展覧会だった」とお褒めの言葉を頂きました。ストレスの多い企画展でしたが、教訓も残してくれたのではないのでしょうか。運営に携わった皆さん、本当にお疲れさまでした。

3カ月の間にいくつもの展覧会開場式や個展のオープンセレモニーに出席させていただきました。そうした席でよく、「近代美術館にはとてもお世話になっています」と感謝の言葉を頂きます。「展覧会の際は(近美の)所蔵品をお借りしました…」といった挨拶をお聞きすると、あながちお世辞ばかりではないのかな、と思います。県立の美術館として、周りの美術館から頼られる存在であることを誇りに思っています。

いささか旧聞になりますが、5月21日に「新潟県立近代美術館協議会」の平成29年度第1回会議が開かれました。冒頭のあいさつで「県立の美術館としての役割、使命を念頭において県民の皆さまに愛される美術館を目指したい」と挨拶させていただきました。県立の美術館でしかできないこと、県立の美術館だからこそできることを

手がけていけたら、と考えています。言うは易し、ですが志は高く持ちたいものです。

館には「新潟県立近代美術館の社会的使命および運営基本方針」があります。社会的使命について、「新潟固有の文化の価値を見直し、併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて(略)、地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する」と謳っています。基本方針として、①国内外の優れた美術品等を身近に鑑賞できる場所を提供する②広く県民に開かれ、親しまれる美術館とするため、常に県民の要請に対応しながら、主体的な企画・運営を行う③県民の美術への関心を深めるように働きかけ、美術とのふれあいを通して生涯学習・学校教育との連携を図る—など5項目を掲げています。この使命、方針を大前提にして美術館活動がある訳ですが、なかでも大切なのは、館を訪れた人が優れた作品と出会い感動してもらうことだ、と私は考えています。感動して、その日一日豊かな心持ちになってもらえたら、と願っています。地域に根差した当館にとって、それに加えて郷土の作家・名作と触れ合う場の提供があります。すてきな音楽、文学に心動かされるように、当館で優れた芸術作品に触れて、大人も子どもも心豊かになってほしいものです。

ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

あのキャラクターたちに“いのちが吹き込まれた瞬間”

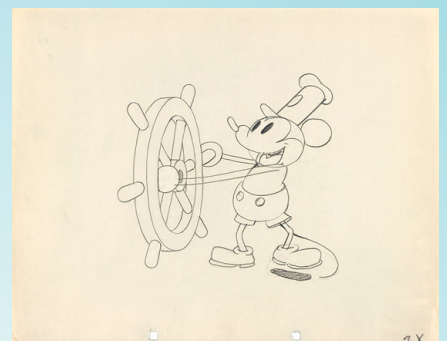
ミッキーマウスの誕生から「モアナと伝説の海」まで、約90年分のディズニー・アニメーションの軌跡をたどる展覧会がついにやって来ます！

数々の傑作が生まれるその背景には、新たな映像を生み出すためのクリエイターたちの試行錯誤や、技術革新の歴史がありました。想像力とその時代の最新技術を駆使することで生み出される、いのちを吹き込む技＝“魔法”。その“魔法”により、はじめは話すことも動くこともしないキャラクターたちが、いきいきと動きはじめるのです。まさにディズニー・キャラクターたちに“いのちが吹き込まれた瞬間”に立ち会う展覧会。きっと子どもから大人まで魅了されることでしょう。

(主任学芸員 伊澤朋美)



《アナと雪の女王》より 2013年 ©Disney Enterprises, Inc.



《蒸気船ウィリー》より 1928年 ©Disney Enterprises, Inc.

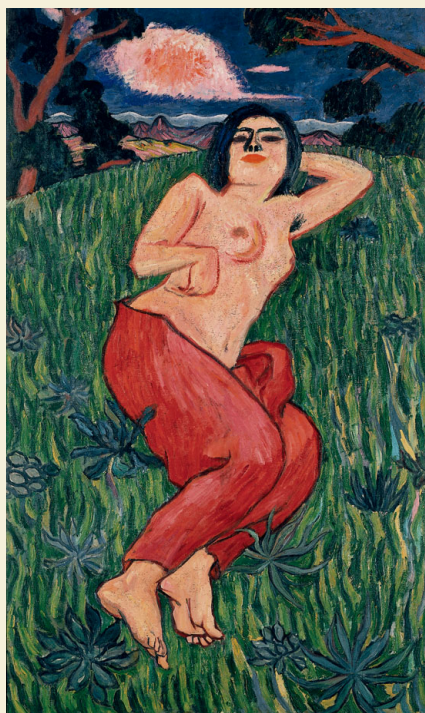
★ ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

会期 2018年2月17日(土)～5月13日(日)

萬鐵五郎展

没後90年

YOROZU Tetsugoro 1885-1927



《裸体美人》1912年 東京国立近代美術館蔵（重要文化財）
※作品は変更される場合があります。

言でもあったのでしょう。卒業式をボイコットまでした彼の決意は、並々ならぬものであったと思います。

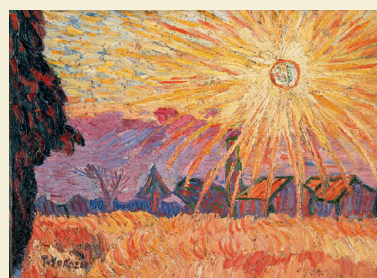
萬が画家として活躍したのは大正時代。複製図版をとおしてヨーロッパから次々ともたらされる最先端の芸術は、日本の若者たちに熱狂的に受け入れられていました。萬も当時そうした若者の1人であったわけですが、彼は決してそこにとどまることなく、ヨーロッパの真似事ではない自らの表現を獲得しようと、試行錯誤を繰り返しました。これに伴い、その画風はめまぐるしく変化していくことになります。当館コレクションの《木の間風景》をご覧になったことのある方は、《裸体美人》の鮮やかな色彩に、同じ画家が描いたとは思えず驚かれるかもしれません。

「目をあけてゐる時は即絵を描いてゐる時だ」という言葉も残るほど、萬は生涯筆をとめることなく制作に没頭し、その先鋭さゆえに批判的な周囲を挑発するかのように、新しい表現に挑み続けました。そうしてほとんど最下位に近い評価だった《裸体美人》も、現在では国の重要文化財に指定されるまでに高い評価を得ています。

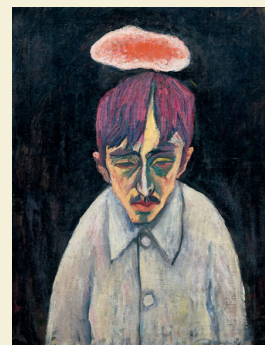
この展覧会では、およそ400点にものぼる作品と資料によって、萬鐵五郎という画家の孤独な挑戦の軌跡を辿ります。最終的にその関心を、南画をはじめとする東洋の芸術へと広げた彼の作品は、油彩画から水墨画にいたるまで実に多様です。バラエティに富んだ多彩な表現をご堪能ください。（美術学芸員 松本奈穂子）

会期 9月16日(土)～11月19日(日)

《裸体美人》は、萬鐵五郎にとって、画家としてのスタートを切った記念碑的な作品にあたります。東京美術学校入学時から優等生であった萬は、もともとそこでの教養に忠実に、袴姿の女学生をモチーフにした群像を卒業制作とする準備を進めていたようです。しかし、最終的に卒業制作として提出したのは、それとは全く異なる、ゴッホやマティスに感化されたこの《裸体美人》でした。この裸婦の寝転がっているはずなのに、どこかこちらを見おろすような姿勢、そして何よりその大胆不敵な態度は、そのまま萬の画家としての独立宣



《太陽の麦畑》1912年頃 東京国立近代美術館蔵



《雲のある自画像》1912-13年
岩手県立美術館蔵

新潟県立近代美術館の

教育プログラム

美術館では様々なイベントが開催されます。講演会、美術鑑賞講座、ワークショップ、映画鑑賞会、コンサート……。その他にも、学校やコミュニティーセンターなどから依頼があれば、いろいろな教育プログラムを実施します。主なプログラムは以下のとおり。

対話型鑑賞

作品を見ながら、思ったこと、感じたことを話し合いながら楽しく鑑賞します。主にコレクション展示室でおこないます。

作品解説

展覧会や作品についてのわかりやすい説明で理解を深めます。

出前講座

学校や公民館に学芸員が出向き、美術についてのお話をします。学校向けに授業の提案をすることもあります。

教員向け研修

「鑑賞」の教育的効果や方法——特に「対話型鑑賞」について、要望に応じてお話しします。

その他

●職場体験 ●体験コーナー ●広報活動 など

対話型鑑賞って…？

子どもたちへのアプローチとして、新潟県立近代美術館で特に力を入れているのが、「対話型鑑賞」です。

対話!? 美術館って、静かにしなくちゃいけないのでは…と思った人、いますよね。

でも、誰かと話し合いながら見るのって、楽しいですよ。それは、なぜでしょう。誰かと感想を共有できるからです。そしてまた、誰かの、自分とは違う発想の感想で世界が広がるからです。

「対話型鑑賞」は、自分なりの見方をもとに、そんな風になくみることが出来る鑑賞法です。

ここでは、「対話型鑑賞」について、もう少し詳しくご紹介します。



「堀口大學展」の開催に向けて

会期 12月2日(土)～2018年1月8日(月・祝)

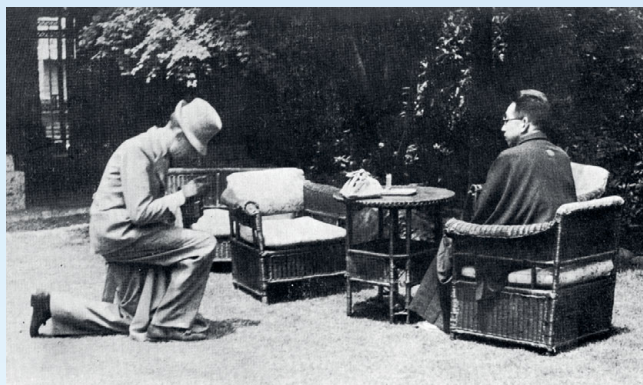
去年の初夏のことです。詩人堀口大學の娘である堀口すみれ子さんが近代美術館に来られました。色々お話を伺った後、丁度開催中のモネ展を見ていただくことになりました。展示室の入口まで案内するあいだ、モネの作品の面白さは睡蓮の花だけでなく水面に映り込んでいる樹木や空、水中にいたるまでの万物が表現されていることですよ、などと知ったかぶりの説明をした私。すると、自身が詩人であるすみれ子さんは「ちょっと違うかも知れないけれど」といいながらジャン・コクトーの詩を一篇口ずさまれました。

シャボン玉の中へは 庭はいれません

まわり
周囲をくるくる回っています

ああ、そうですね、まさにコクトーの「シャボン玉」にも宇宙のすべてが映っていますね。モネとコクトー、そしてコクトーの詩を訳した堀口大學が深いところまでつながったように感じられた瞬間でした。

詩というと、何か叙情的で甘美なものを書いた文章を連想されるかも知れません。ところが、「詩」の語源をたずねるとギリシア語のポイエーシス「創造する」という言葉にたどりつきます。詩を書くことは、ひとつの世界を創り出すという根源的な行為でもあるのです。絵筆で創るモネも、言葉で創るコクトーも大學もみな創造者＝詩人というわけです。詩人の展覧会を、美術館で開催する理由もおのずとおわかりいただけるでしょう。



カメラを持っているコクトー（左）と堀口大學（帝国ホテルの庭にて。1936年の来日時の写真）

今回の「堀口大學展」の準備のために、詩人が終戦後から1981年に亡くなるまでの後半生を過ごした神奈川県葉山にあるお宅をたずねて調査をしました。「ニコへ」（ニコは大學の愛称）と献辞の書かれたコクトーの見事なデッサンや直筆の手紙など二人の友情をしのばせる品々が大切に残されていました。きのうあったことのように、そこだけ時間が永遠にとまっているようにも思われました。詩人の心の扉を開けることへのためらいを覚えつつも、創造の秘密をひもとくことができる大きな喜びも感じる機会となりました。

展覧会では堀口大學の著作や資料だけでなく、コクトーをはじめ様々な芸術家との親交からもたらされた作品をご紹介します。長岡が生んだ偉大な詩人の生涯をたどる回顧展にご期待ください。
(学芸課長代理 平石昌子)

Q そもそも「対話型鑑賞」って何ですか？

A 見る人同士の対話を通して作品の理解を深めるものです。解説は見る人の感想と関係なくその作品の価値を一方的に伝達するものですが、対話型鑑賞は、いわば、鑑賞者が価値をつくりだすのです。

Q どうやって進めていくのですか？

A 何人かのグループにファシリテーター（中立的な立場で活動を支援する人）が一人いて、見る人同士の対話をフォローします。「この絵の中で何が起こっていますか？」「何か気付いたことを教えてください」というような、偏見のない質問から見る人の意見を引き出していきます。見る人同士のコミュニケーションを通じて作品の見方が深まっていきます。

Q 対話型鑑賞が通常の鑑賞と違うところは何ですか？

A 作品の研究者による解釈や知識によるのではなく、見る人の感想を重視します。また、感性の異なる複数人で進めることにより、一人で鑑賞を深めるよりもより見方が広がります。それによってコミュ

ニケーション能力が高まり、また、自己有用感や能動的に学ぶ意欲が育まれます。

Q 実際に体験した人の声は？

A 教員からの事後アンケートで「絵を見る楽しさやおもしろさ、友達の見方などを感じとり味わう姿が見られました」「作品の見方は様々で、見る人によって感じ方が違うこと、違ってよいことがわかった」という感想が寄せられました。また、「学級づくりの一つの手だてとして、自分でも取り組んでみたい」「教室ではあまり手を挙げない子が何度も発言していました」などの声も聞かれました。

(学芸課長代理 宮下東子)

楽しくおしゃべりしながらの作品鑑賞、
みなさんもやってみませんか？

ギャラリートーク「美術でおしゃべり」

7月29日(土)、8月5日(土)、8月12日(土) 各回11:00～

わたしとこの1点

白髪一雄《志賀 #107》

私が油絵科の学生だった頃「どうしたら、つまらない自分の絵を乗り越え、魅力的な絵が描けるのか。」ということをし、いつも考えていました。しかし、いくら乗り越えようとしてもその方法が見いだせません。そうしているうちに絵描きの道を諦め中学校の美術の先生になっていました。

白髪一雄は、新たな表現の可能性を求めつづけ、「ぶら下がつて足で描く」という思いもよらないような描き方を見出しました。さらに比叡山で得度するなど、常に現状で留まることなく追求し続けていたのです。

私が中学校の先生になって何年も経ったある日のことです。私はチョットしたきっかけで「美術の先生」という立場を授業中にもかかわ

らず忘れてしまいました。その瞬間、初めて私は子どもたちの感じているであろう世界に入り、子どもたちが創作する楽しさに浸っている様子が目に飛び込んできました。何だか分かりませんが涙が止まりませんでした。

「何かを狙って、狙ったものを再現する。」ということは絵画制作でも授業でもいつかは色褪せてしまいます。一方、白髪のこの作品を見ると、白髪が足で描く絵画空間と出会った時の感動が色褪せることなく画面から伝わってきます。

私の背中を押してくれる一枚です。

(副館長 丸山実)



白髪一雄《志賀#107》1973年 当館蔵

NIIGATA アートリンク

ART LINK 2017 トークセッション「美術館のあしたのあした」を行いました!

去る6月11日(日)にNIIGATAアートリンク主催による初めてのトークセッション「美術館のあしたのあした」が新潟市美術館で行われました。登壇者はこれからの美術館を担う若手の学芸員として、新潟市美術館の星野立子学芸員、新潟市新津美術館の長島彩音学芸員、県立万代島美術館の飯島沙耶子主任学芸員、そして当館の伊澤朋美主任学芸員の4名が参加しました。それぞれの苦労話やアツイ想いが語られる中で、長島学芸員の「美術館は世界平和のためにある」という発言が特に心に残りました。当日はびっくりする程、大勢の方にご参加いただきました。詳しいレポートは当館HPにも掲載しています。ご興味のある方はこちらまでご覧下さい。



最後にNIIGATAアートリンク関係でもう一つ。本年刊行の新潟市美術館・新潟市新津美術館研究紀要第5号には、新潟市美術館の松沢寿重主幹による力作「創庫美術館 点-その由緒と事跡」が掲載されています。創庫美術館の活動は、1960/1970年代の長岡現代美術館や「GUN」の活動と2000年以降の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「水と土の芸術祭」を繋ぐ、まさにミッシング・リンクでした。この論文ではそのはじまりから終焉までが詳細に紹介されています。新潟の現代美術史を語る上で必読の書です。この機会に是非。

(学芸課長 藤田裕彦)

近美のおすすめ

7月位から、駐車場の隣にあり信濃川の土手に繋がっている道の途中に咲いている「紫陽花」が私のおすすめです。何種類もあり、道の両脇に咲いているので見応えがあります。

その中でも私は「白の額紫陽花」がお気に入りです。梅雨のジメジメした嫌な気分を明るくしてくれ、紫陽花の種類によって咲く時期が違うのでそれも楽しみの一つです。仕事の行き帰りにつつい寄って見てしまいます。

美術館の魅力は中ももちろんのことですが、建物の外にもたくさんあるので、お越しになられた際は車やバス停には直ぐは戻らず、季節折々の自然を探索してみてくださいはいかがでしょうか。

(元嘱託員 武紗織)



＼お世話になってます／

シリーズ
その11 講堂



展覧会に合わせた講演会や美術鑑賞講座、映画鑑賞会など様々なイベントに利用しています。また、ピアノ発表会や研修会など一般貸出も行っています。随時、見学も受け付けていますのでお気軽にお問い合わせください。(総務課長 高尾和明)

編集部からの ひとこと

今回は教育プログラムについて特集し、児童・生徒のみなさんに美術館をめぐって楽しんでいただくための当館での取り組みをご紹介します。次号いよいよ節

目の50号を迎える雪椿通信。今後も、知られざる(?)美術館のはたらきや学芸員のお仕事など、みなさまにお伝えできればと思っています。引き続き、美術館共々、雪椿通信をよろしくお願いします。

(美術学芸員 松本奈穂子)

新潟県立近代美術館だより 雪椿通信 第49号

編集・発行

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL0258-28-4111(代) FAX0258-28-4115
http://kinbi.pref.niigata.lg.jp/ e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷

株式会社 山田写真製版所
〒950-0064 新潟県新潟市東区松島1-5-14

発行日

2017年7月7日